

期シタル場合トヲ包含スルモノトス

**第二百四十一條** 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

【意義】 本罪ハ強盜ノ目的ヲ以テ家宅侵入シタル場合ニ其目的タル他人ノ物ヲ強取シテ後チ婦女ヲ強姦シタルト強盜ノ目的ハアリタルモ之ヲ遂ゲズシテ唯ダ婦女ヲ強姦シタル場合ハ強盜ハ未遂ニシテ強姦ノ既遂罪トナル又本罪ハ婦女ヲ強姦シテ後チ強盜ヲ爲シタル場合ヲモ包含ス例ヘバ往來ニテ婦女ヲ強姦シ其婦女ノ所持シタル財物ヲ強取シタルトキノ如キ是ナリ而シテ家宅ニ侵入シタルトキニハ最初強盜ノ目的ニ在リシヲ多シトス

本罪モ亦強盜強姦ハ一個ノ犯罪ニシテ二罪俱發ニアラザルナリ然レドモ強盜ノ未遂罪ナルコトナキニアラザルモ第二百四十一條ノ場合ハ未遂罪ヲ罰スルモノトスレバ本罪ノ未遂罪ハ前條ト同一ノ趣旨ナリトス

強盜強姦ノ結果婦女ガ死亡シタルトキハ犯人ニ於テ若シ傷害セントノ意思アリタルトキハ前條ニ依リ處罰スベシ若シ傷人ノ意思ナキトキハ本條ニ從ヒテ其罪ヲ論ズルモノトス

**第二百四十二條** 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ

命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス

【意義】 舊法第三百七十一條ニ曰ク自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ズト自己ノ所有物ニ對シテハ竊盜罪ノ成立スルコトナシ然レドモ自己ノ所有物ガ他人ノ占有ニ屬シ即チ抵當典物ト爲リテ他人ガ其物ノ上ニ占有權ヲ存スルトキ又ハ公務所ノ命ニ依リ他人ノ看守シタルモノ即チ公務員ニ差押ヘラレ其看守中ニ在ルモノハ自己ノ處分權ヲ失ヒタルモノナレバ法律上他人ノ物ト同一ニ看做スヲ以テ之ヲ自己ガ處分シタルトキハ竊盜罪トシテ罰スベキモノナリ

尙ホ自己ノ物ト雖モ他人ノ占有ニ屬スル場合ノ外他人ガ其物ノ上ニ使用收益權又ハ留置權ヲ有スル場合ニ於テモ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ物ト看做スベキモノトス

**第二百四十三條** **第二百三十五條** **第二百三十六條** **第二百三十八條** 乃至**第二百四十一條**ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【意義】 本條ハ本章中未遂罪ヲ罰スル規定ヲ列舉シタルモノナリ



改正法が本條ヲ設ケタル趣旨ハ二百三十五條ハ全ク既遂ノ事實ニ付テ規定シタルモノニシテ隨テ本條即チ第二百四十三條ニ至テ未遂罪トスベキ場合ヲ規定シテ未遂罪ハ特別ノ罪ノ如ク規定セリ故ニ單ニ二百三十五條ノ罪トシタルノミニテハ第二百四十三條ノ二百三十六條ノ未遂罪ハ之無キモノトナルノ處レガアルニ因ル是レ改正法ハ未遂罪ハ特別ニ其場合ヲ規定スルノ方針ナルヲ以テ本條ハ二百四十四條ノ規定ノアルニモ拘ハラズ殊更ニ第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰スル旨ヲ規定シタル所以ナリ

**第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ**  
**其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス**  
**親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス**

【意義】 本條ハ犯人ト其被害者トノ間柄ガ直系血族即チ祖父母父母及ヒ子孫ナルカ又ハ配偶者及ヒ同居ノ親族ナルカ家族ナル場合ノ不論罪ヲ規定シタルモノナリ

直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テハ相互ニ救護スルノ義務アルモノナレバ人倫上相互間ノ犯罪ハ隱クシテ訴ヘルニ忍ビザルハ人情ノ然ラシムル所ナリ法律モ亦人道ノ上ニ

於テ親族間ノ平和ヲ保ツ爲メニ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリ古人モ曰ヘリ父ハ子ノ爲メニ隱クシ子ハ父ノ爲メニ隱クス直其中ニ在リト

本條ハ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ刑ヲ免除スベキハ第二百三十五條ノ竊盜罪及ヒ其未遂ノ場合ニ限リテ其他ノ本章ノ場合ニ付テハ何等ノ規定ナシ然ラバ假令ヒ此等ノ者ノ間柄ナルモ強盜ノ罪ヲ犯シタルトキノ如キハ本條ノ規定ノ例外ナリト知ルベシ

其他ノ親族トハ傍系血族即チ伯叔父母從兄弟等ヲ云フナリ此等ノ者ノ間ニハ本條ノ規定ヲ適用セズ然レドモ被害者ノ告訴ナケレバ其罪ヲ論ゼズ

親族又ハ家族ニ非サル者ノ共犯ニ付テハ之ヲ適用スルコトヲ得ズ故ニ此身分ノナキ共犯者即チ他人ガ此等ノ者ト共ニ竊盜ヲ爲シタルトキハ假令ヒ竊取ノ財物ヲ分タザル場合ニ於テモ其他ノ人ハ處罰セラル、モノトス

**第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス。**

【意義】 電氣ハ經濟學上ニ自由ノ財トシテ空氣水等ト同一性質ノモノナリシガ今ヤ電氣ヲ使用スルニ由リ金錢ヲ以テ需用スルニ至リタレバ財物ト見做スニ至リタリ故ニ之ヲ使用スル場合ニ竊盜罪ヲ構成スルコトヲ得ベシ例ヘバ電燈會社ト約束外ニ自由ニ使用シタルトキ



ノ如キハ即チ窃盜罪ト爲スベキナリ

◎第二編 罪

強盜ノ罪

第三強盜	竊盜ノ成立條件	(一) 定 義 強盜トハ人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ他人ノ財物ヲ強取シタル所爲ヲ云フ
第四強盜ノ種類	(二) 成立條件	(イ) 財物ヲ強取シタルコト (ロ) 暴行脅迫ヲ手段トシテ強取スルコト (ハ) 右ノ手段方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得シメタル者
	(三) 處分	右ノ場合ハ五年以上ノ有期徒刑
第五不 論 罪	(一) 準 強 盜	(イ) 窃盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者 (ロ) 人ヲ昏酔セシメテ其財物ヲ強取シタル者 (ハ) 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者
	(二) 加重強盜	(イ) 強盜人ヲ傷ケタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處シ (ロ) 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ死刑又ハ無期懲役 (ハ) 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ死刑又ハ無期懲役 (ニ) 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ死刑又ハ無期懲役 テ婦女ヲ強姦シタルトキハ死刑又ハ無期懲役
第五不 論 罪	直系血族配偶者及ビ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ビ其未遂罪ヲ犯シタル者	

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

【改正要點】 舊法ハ本章ノ規定ヲ恐喝取財罪ト爲シタルモ改正法ハ暴行又ハ脅迫ノ意義ト其間ノ區別頗ル不明ニシテ從來疑義ヲ生ジタルヲ以テ前ニ強盜罪ノ場合ニ於テ明カニ其手

段ヲ限定シ本章ニ於テ之ヲ區別スルガ爲メ強盜ノ脅迫以外ノ脅迫ヲ用ヒ人ノ財物ヲ奪取シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

【意義】 本罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ヲ罰スル規定ナリ

第一 人ヲ欺罔スルコト欺罔トハ全ク事實ノナキコトヲ有ルガ如クニ構ヘテ云フトキト其事實ノ一部ハ之アルモ他ハ全ク虚構ナル場合又眞實ヲ虚偽ニ變更スルコトアリ又スルニ人ニ信ゼシメ錯誤ニ陥ラシメタルバ欺罔トナルナリ又ハ既ニ陥リタル錯誤ヲ利用スルコトヲ謂フ而シテ此ノ錯誤ノ觀念ハ單純ナル事實ノ不知ト區別スルコトヲ要ス例ヘバ賣買ヲ贈與ト誤解スルガ如キハ錯誤ナリ之ニ反シ電車ノ車掌ガ油斷ノ際ヲ窺ヒ切符ヲ切シテ乘込ミタル者アルトキニ車掌ガ之ヲ知ラザルハ單純ナル事實ノ不知ニシテ錯誤ニアラズ然レドモ苟モ他人ノ錯誤ヲ生ゼシメ又ハ之ヲ利用スルトキハ其手段方法ノ如何ヲ問ハザ

◎第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪



ナルリ

◎第二編 罪

五九四

**第二** 財物ヲ騙取スルコト財物トハ廣ク動産不動産ヲ云フ此財物ハ人ノ保管ニ係ルモノニシテ之ヲ騙取スルトハ欺罔ヲ手段トシテ自己ノ保管ニ移スヲ云フナリ若シ欺罔ニ依ラザルトキハ騙取ト云フコトヲ得ズ即チ錯誤ヲ生ゼシムルハ騙取ヲ爲サントスルガ爲メナリ故ニ欺罔スルモ錯誤ニ陥ラザレバ財物ヲ騙取スルコト能ハザルモノナリ例ヘバ小兒ニ對シテ欺罔スルガ如キ手段ヲ以テ欺罔セントスルモ決シテ相手ノ者ガ之ヲ信ジテ錯誤ニ陥ルモノニアラザルガ如シ

**第三** 他人ニ不實ノ事ヲ誤信セシムル手段トシテ別ニ信用ヲ買フベキ材料ヲ使用スルコトヲ必要トセズ不實ノコトヲ主張スルカ其他荷クモ他人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメ又ハ既ニ陥リタル錯誤ヲ利用スルコトヲ以テ足レリトス要スルニ先ヅ欺罔ノ所爲アルベク欺罔ニヨリ錯誤ヲ生ジタルコトヲ要シ其結果トシテ財物ヲ交付セシメ騙取シタルトキハ本罪ノ既遂ナリ而シテ其財物ハ被害者ノ所有ナルコトヲ要セズ唯ダ其財物ニ付テハ事實上處分權アリテ之ヲ交付スルコトヲ得ベキ人ナルコトヲ要ス

**第四** 其欺罔ノ事實ハ現在ノコトノミニ關セズ將來ニ生ズベキ事實ヲモ含ムモノトス例ヘバ新聞ノ記事ヲ利用シテ某國ト戦争ガ開カルベキハ近キニ在リ此際或事ヲ爲サバ必ズ儲

カルベシナド、云フガ如シ

**第五** 欺罔ノ手段ハ必ズシモ作爲即チ爲サハル可カラザル事ニ依ルヲ要セズ不作爲即チ默止ニ依リテモ亦之ヲ行フコトヲ得ベシ例ヘバ兩換ヲ依頼スルニ五圓ノ紙幣ヲ出シタルニ先方ニハ之ヲ十圓紙幣ト誤リテ十圓分ノ兩換ヲ交付シタル場合ニ於テ五圓ノ兩替ナルコトヲ告ゲズシテ之ヲ受取リタルガ如ク告ゲザルハ不作爲ニシテ默止ノ騙取ト云フベキナリ

(判決例) 近時ノ判決例ヲ見ルニ左ノ如シ

人ヲ欺罔スルニ足ルベキ詐言ハ取財ノ手段ト爲ルコトハ從來本院判例ノ認ムル所ナレバ虚言以テ人ヲ錯誤ニ陥ラシメ騙取ノ目的ヲ遂ゲタル場合ハ詐欺取財ヲ完成シ其目的ヲ遂ゲザリシ場合ハ未遂罪ヲ構成スルヤ疑ヲ存セズ云々ト

商人ガ物ヲ賣買スルニ當リ物質ヲ變ジタル場合モ詐欺ノ手段ト爲ス即チ舊法第三百九十二條ニ曰ク物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變ジ云々トアリテ單ニ全然其物質ヲ變ジテ別種ノ物ヲ交付スル場合ノミナラズ或物ニ他ノ物ヲ混和シ依テ以テ其品質ヲ粗惡ナラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス

**第二項** 人ヲ欺罔スル手段ヲ以テ財物ヲ騙取スルノミナラズ其手段ニ依リテ財産上不法ノ

◎第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

五九五



利益ヲ得又ハ人ヲシテ之ヲ得セシムル場合ノ規定ナリ財産上ノ利益トハ總テ金錢ニ換ヘルコトヲ得ル利益ヲ云フ故ニ新ニ物ノ上ニ權利ヲ得又ハ既ニ自己ニ屬スル財産ノ價值ヲ増大ナラシムル場合又ハ新ニ財産上ノ請求權ヲ得或ハ既ニ得タル請求權ヲ確實ナラシムル爲メ保證又ハ擔保ヲ得ルコト又ハ財産上ノ義務ノ免除ヲ得ル場合等ヲ云フ此等ノ利益ヲ不法ニ即チ權利ナクシテ得ルヲ云フ

**第二百四十七條** 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

【意義】 本條ノ規定ヲ左ノ四項ニ分チテ説明スベシ

- 第一 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ナルコト
- 第二 自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リタルコト
- 第三 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テスルコト
- 第四 其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘルコト

**第一** 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ例ヘバ仲買人ガ他人ヨリ依頼ヲ受ケタルガ如キ場合又ハ財産管理人ガ管理ノ委託ヲ受ケタル場合ノ如シ

**第二** 自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リタルコト即チ仲買人ガ却テ不徳義ノ行爲ヲ爲シ財産管理人ガ被管理者ノ對スル義務ト責任トヲ忘レ私利ヲ營ミ又ハ第三者ノ爲メニ利益ヲ圖ルガ如キヲ云フ

**第三** 本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テスルコトヲ要ス過失ニアラズ故意ニ出デ本人ニ損害ヲ加ヘントノ惡意アルニ非ザレバ本罪ヲ成ササルナリ

**第四** 任務ニ負キタル行爲ヲ爲スコト仲買人及ビ財産管理人ハ其處理スル事務ニ付テハ委任者ノ利益ヲ圖ルベキハ其任務ナリトス此ノ任務ニ背キ却テ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ財産上ノ損害ヲ加ヘルヲ云フ

本條ハ改正法ガ新ニ設ケタル規定ニシテ此等ノ行爲ハ世間往々見ル所ニシテ此場合ハ理論上民事訴訟上損害賠償ヲ求ムル途ナキニアラズト雖モ事實上ハ概ネ其救済ナキト同一ニ歸ス且ツ其行爲ノ治安ヲ害スルコト本章及ビ次章ニ於テ規定スル罪ニ讓ラズ故ニ本條ヲ規定シテ其弊ヲ防止セントスル所以ナリ

**第二百四十八條** 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其



財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

〔改正要點〕 本條ハ舊法第三百九十一條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ舊法ハ未成年者ノ外精神錯亂者ノ規定ヲ設クト雖モ此場合ハ窃盜若クハ詐欺ニ因ル盜罪ニ該當スルヲ以テ之ヲ削除シタルモノナリ但舊法ハ本條ノ場合ヲ以テ一ノ詐欺取財ト爲スト雖モ其性質詐欺取財罪ニアラザルヲ以テ別ニ本條ノ如ク規定シタルナリ

本條ハ詐欺取財罪ノ性質ニアラズシテ未成年者ノ智慮ノ淺薄ニシテ事理ノ辨別心ト利害得失ヲ識別スル智能ナク或ハ成年者ト雖モ心神耗弱即チ精神ノ能力不充ナルニ乘ジテ其所有セル財物ヲ渡サシムルヲ謂フ例ヘバ汝ノ所有財物ハ汝ガ所有スルトキハ危險ナレバ我之ヲ管理スベシト云ヒ之ヲ交付セシムルガ如シ是レ詐欺ニ似テ異ナル所ナリ詐欺ハ智能普通ノ者ニ對シ錯誤ニ陥ラシメテ其財物ヲ騙取スルヲ云フニ在リ

又不法ニ財産上ノ利益ヲ得ルトハ權利ヲ侵害スル不法行爲ヲ云フ即チ法律ノ保護スル利益ヲ侵害スルナリ其如何ニシテ不法ノ利益ヲ得ルヤト云フコトハ前條ニ於テ述ベタルガ如シ  
第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

〔意義〕 脅迫ト恐喝ト異ナル點ヲ説明スレバ即チ左ノ如シ

第一 恐喝トハ總テ人ヲシテ直接又ハ間接ニ危害ヲ被ムルコトヲ信ゼシムルニ依テ意思實行ノ自由ヲ失ハシムルヲ云フ

第二 脅迫ハ他人ノ意思ノ自由ヲ失ハシムルコトヲ要セズ唯ダ危害ヲ受クベキコトヲ信ゼシムルヲ云フ且ツ其危害ハ被脅迫者又ハ其親族ニ對スルモノニ限ルト雖モ本章ノ恐喝ハ不法ニ自己又ハ第三者ヲシテ財産上ノ利益ヲ收得セシムル目的ヲ以テ他人ノ自由意思ヲ失ハシメ財産上ノ處分ヲ爲スコトヲ得ザラシムルニ在リ

第三 脅迫ハ脅迫者ニ於テ直接又ハ間接ニ危害ヲ相手方ニ加フベキコトヲ以テ手段トスルモ恐喝ハ恐喝者ニ於テ直接又ハ間接ニ危害ヲ加フベキコトヲ以テ手段トスルハ勿論尙ホ天災又ハ神佛ノ祟ヲモ説クコトヲ以テ手段トスル場合ヲモ包含ス

第四 強盜罪ノ脅迫ト恐喝ノ異ナル所ハ強盜罪ノ手段タル脅迫ハ其ノ脅迫ガ有形的ニ他人ノ身體ヲ強制シ其抵抗カヲ失ハシメ而シテ無形的ニ意思ノ自由ヲモ全ク失ハシムルモノナラザルベカラズト雖モ恐喝ノ材料タル危害ハ精神上ノ反抗ヲ制限スルニ過ギズ即チ被



恐喝者ニ於テ反抗ヲ爲スコトヲ得ベキ餘地ヲ與フルモノトス

(判決例) 官吏ガ恐喝ノ爲メニ用ヒタル手段ガ其職務ニ關シ被害者ノ財物交付ノ目的ガ全ク其官吏ノ職務上ノ行爲ヲ止ムルニ出デタル場合ト雖モ其官吏ハ恐喝取財タルコトヲ免レズ

其理由ニ曰ク云々腦裏ニ畏怖ノ念ヲ生ゼシメ之ニ乘ジテ財物騙取ノ目的ヲ達シタルモノニシテ被害者ハ財物騙取ノ目的ヲ以テ被告ノ施シタル恐喝的手段ニ陥リ被告ニ金員ヲ交付シタルモノナレバ刑法第三百九十條ニ所謂人ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取シタル者ニ該當ス尤モ本件ニ在テハ被告ガ恐喝ノ手段トシテ用ヒタル(略)之ヲ收受シタル被告ノ所爲ハ舊法第二百八十四條ノ官吏收賄罪ヲ構成スルガ如シト雖モ原院ノ認ムル如ク被告ハ一ノ雇員ニシテ官吏ノ資格ナキヲ以テ舊法第二百八十四條ハ之ヲ適用スルコトヲ得ザルノミナラズ加害者ガ始メヨリ財物騙取ノ目的ヲ以テ恐喝手段ヲ施シ其結果財物ノ騙取ヲ遂ゲタルモノナルニ於テハ恐喝取財罪ハ完全ニ成立スベク加害者ガ官吏ニシテ恐喝ノ爲メニ用ヒタル手段ガ其官吏ノ職務ニ關シ被害者ガ財物ヲ交付シタルハ全ク加害者タル官吏ノ職務上ノ行爲ヲ止ムルノ目的ニ出デタル場合ト雖モ其財物ノ交付ヲ受ケタル加害者ノ所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成シ官吏收賄罪ヲ構成スルコトナシ何トナレバ此ノ場合ニ於ケル財物ノ授受ハ加害者ガ財物騙

取ノ目的ヲ以テ被告等ニ加ヘタル恐喝ノ結果ニシテ官吏ガ單ニ人ノ請託ヲ金品ノ贈賄ヲ受ケテ之ヲ收受シ其金品ガ當事者ノ承諾上平穩ニ行ハル、所ノ官吏收賄罪ト目ヲ同フシテ論ズルコトヲ得ザルヲ以テナリ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【意義】 本章ノ未遂罪ハ詐欺及ビ恐喝ノ場合ニ於テ未ダ目的ノ財物ヲ騙取セズシテ單ニ錯誤ニ陥ラシメタルニ至リタル場合ヲ謂フハ前ニ引證シタル判決例ニ依リテ明カナリ

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ

第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

【意義】 本章ノ罪モ亦自己ノ財物ト雖モ他人ノ管理スル所ト爲リタル場合ニ之ヲ騙取シタルレバ本罪ヲ構成スルモノトシ其他親族ノ間ニ於テ詐欺恐喝ノ行爲アリタルモ罪トシテ論ゼザルコトハ第二百四十四條ノ規定ト同ジク又電氣ニ付テモ約束以外ノ使用ハ本罪ヲ成スモノトス



第一 詐欺取財

(甲) 欺罔シタルコト

(イ) 欺罔ノ意義  
欺罔トハ全ク事實ヲヤコトシテ有ルカ如クニ或ハ其事實ノ一部ハ之アルモ其ハ無キコトヲ以テ錯誤ニ陥ラシムルコト

欺罔ノ事實

- (一) 他人ニ不實ノ事ヲ誤信セシムルヲ手段トシテ別ニ信用ヲ買フベキモノヲ強スルカ若クハ他人ヲシテ錯誤ニ陥ラシムルコトヲ以テ足レリトス
- (二) 欺罔ノ事實ハ現在ノコトノミニ限セズ將來ノ事實ヲモ含ムモノトス
- (三) 欺罔ノ手段ハ必ズシテモ作爲ニ因ルコトヲ要セズ不作爲即チ黙止ニ依ルモ亦之ヲ行フコトヲ得ベシ

(乙) 財物ヲ騙取スルコト

(イ) 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルコトヲ要ス即チ欺罔ヲ手段トシテ他人ノ財物ヲ自己ノ保有ニ移スヲ云フ此等ハ十年以下ノ懲役

(丙) 不法ノ利益ヲ得ルコト

人ヲ欺罔スル手段ニ因テ財産上ノ利益ヲ得又ハ人ヲシテ之ヲ得セシム不法ノ利益トハ無形ノ財産ニシテ即チ舊法ニ所謂證書債額ニシテ金銭貸借其他財産上ノ權利ヲ目的トスル證書等ヲモ騙取ス其罪前ニ同シ

第二 財産上ノ損害ヲ加フルコト

- (一) 財産上ノ利益ヲ得ル爲メナルコト  
他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ不正ノ所爲ヲ爲スニ在リ
- (二) 損害ヲ加フ  
本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ右二個ノ行爲ハ五年以下ノ懲役千圓以下ノ罰金

詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第三 準詐欺取財

(イ) 財物ヲ交付セシムル  
未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘ジテ其財物ヲ交付シ利益ヲ得ルコト  
未成年者ニ對シ不法ニ即チ權利侵害ノ行爲ヲ以テ財産上ノ利益ヲ得ルコト  
爲ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第四 恐喝取財

(一) 定 義  
恐喝取財ノ性質ハ他人ニ對シテ危害ヲ加フベキ行爲ヲ以テ心中ニ畏怖ヲ生ジシメ財物ヲ交付セシムルヲ云フ  
(甲) 財産ヲ交付セシムルコト  
恐喝スルハ其目的他人ヲシテ財産ヲ交付セシムルニアルヲ要ス故ニ權利侵害ノ賠償トシテ受ケタルトキノ如キハ本罪ヲ成サズ

(乙) 恐喝ノ効果  
危害ヲ加ヘント恐喝シタル結果被害者ガ精神上ノ畏怖ヲ生ジテ財物ヲ交付シタルコトヲ要ス若シ之ヲ交付セザレバ未遂罪トナル

第五章 未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十八章 横領ノ罪

【改正要點】 舊法ハ受寄物消費罪ニ關シテハ唯金額物件ニ關シテノミ規定ヲ設ケ不動産ニ關シテハ之ヲ罰ス



關スル場合ハ其規定ナシト雖モ本章ニ於テハ明ニ他人ノ爲メ占有スル物ヲ横領シタル罪ト爲シテ本章ノ適用ヲ全フシタリ

舊法ニハ受寄財物ヲ費消スルカ又ハ騙取<sup>オウタイ</sup>拐帶等ノ行爲ヲ爲スニ非ザレバ罪ト爲サルヲ以テ單ニ受寄ノ財物ヲ自己ノ物トシタル場合ニ在テハ何等ノ罪ヲモ構成セズ故ニ被害者ハ唯民事上ノ救濟<sup>キウサイ</sup>ヲ求ムル外ナク其保護極メテ薄弱ナリシヲ以テ改正法ハ改メテ費消又ハ拐帶スルニ至ラズト雖モ既ニ横領ノ行爲アリタル場合ニハ之ヲ罪トシ以テ此弊害ヲ濟フニ在リ舊法ハ受寄財物ニ關シ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合ト否ラザルモノトノ區別ヲ爲サズト雖モ業務ニ因リ他人ノ爲メニ占有スル場合ハ通常ノ場合ト異ナリ自カラ保管ノ責アルノミナラズ一方ニハ交通取引ヲ妨グ社會ノ信用ヲ害スルコト甚大ナルヲ以テ此二者ヲ區別シ各別ノ規定ヲ設ケタリ

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

【意義】 横領ノ罪ハ舊法ニアル所ノ監守盜、受寄物費消ノ二罪ヲ包含シタルモノナリ即チ本罪ヲ成スニハ左ノ行爲ニ因ルモノトス

第一 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタルコト

之ヲ一言ニ盡セバ他人ノ物ヲ預リ居ル者ガ其物ヲ自己ノ物トシテ費消スル等ナリ是レ舊法ニ監守盜、受寄物費消罪トスル所以ナリ而シテ茲ニ云フ占有トハ民法ニ所謂ル自己ノ物トスル意思ヲ以テ物ヲ所持スル意味ニ非ズ唯ダ一時自己手裡ニ所持シタル場合ニシテ語ヲ換ヘテ云ハ預リ居ルヲ謂フモノナリ即チ舊法ガ受寄ノ財物、借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケタル金額物件等ヲ包含ス此等ノ物ハ自己ニ所分權アルモノニ非ズ他人ニ返還スベキ義務アルモノナリ之ヲ要スルニ本罪ノ目的物ハ法律行爲ニ基キ返還又ハ特定ノ目的的方法ニテ或ル義務ヲ以テ自己ノ所持シ居ル所ノ他人ノ保有物ナリトス

第二 横領スルコトヲ要ス横領トハ自己ノ所有物ノ如ク所分スルコトヲ謂フ所分行爲ハ賣却、讓與、抵當、質物等ニ爲スヲ謂フ尙ホ換言スレバ自己ノ經濟上ノ財産トスルニ在リ即チ事實上所有權ノ行使ニシテ自己ノ物トシテ處分スルコトナリ而シテ其處分方法ニ種類アレドモ前ニ述べタル讓渡、抵當、質物等ニ爲ス費消スル場合ヲ多シトス左ニ其場合ヲ舉ゲテ説明スベシ



(一) 物ヲ讓渡シ又ハ消費スルトキハ普通ニ費消スルノ意思アリト謂フコトヲ得ベキモ若シ權利者ノ利益ノ爲メニ物ヲ讓渡シ又ハ消費スルモ費消ノ意思アリト云フコトヲ得ズ又抵當權者ガ其權利ノ行使方法トシテ適法ニ抵當物ヲ競賣シタルガ如キモ亦費消ノ意思アリト云フコトヲ得ズ

(二) 質物トシタル場合ニ入質者ニ於テ質受ノ上返還スル意思ナクシテ入質シタルカ又ハ假令ヒ此意思アリトスルモ之ガ實行ヲ豫期スルコトヲ得ベキ狀況ニアラザリシトキハ費消ノ行爲ナリト謂フコトヲ得ベキナリ

第三 自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者ナルコト  
自己ノ所有物ト雖モ債務ノ爲メニ公務所ヨリ差押ヲ受ク其保管ヲ命ゼラレタル物ハ自己ノ所分權ヲ失ヒタルモノナレバ之ヲ處分シタルトキハ横領シタルモノト爲ル

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

【意義】 本條ニ業務ト云フ文字ヲ用ヒタルハ多ク職務ト職業トノ兩様ヲ包含スルモノト解釋スルヲ至當トス而シテ業務上他人ノ爲メニ占有スル場合トハ例ヘバ通運會社ガ運送物ヲ

委託セラレテ之ヲ横領シタルガ如ク又ハ船荷間屋ガ荷物ヲ預リテ之ヲ横領シタルガ如キヲ謂フ

職務上他人ノ物ヲ横領スルトハ例ヘバ監守者ガ自己ノ監守セル物ヲ横領スルガ如キヲ云フ此等ノ者ガ横領スルハ通常ノ者ガ横領スルトハ其責任自カラ異ナリ即チ此等ハ保管ノ責任ガ業務上ナルノミナラズ一方ニハ交通取引ヲ妨グ社會ノ信用ヲ害スルコト大ナルヲ以テ法律ハ特ニ之ヲ規定シテ其罪責ヲ重クシタルナリ

第二百五十四條 遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ者ヲ横領シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

【意義】 遺失物ハ數時間保有者ノ手ヲ離レタルモノニシテ而シテ其ノ離レタルハ保有者ニハ之ヲ知ラザリシ狀況ニアルモノ換言スレバ保有者ガ保有ヲ拋棄スルノ意思ナクシテ偶然其保有ヲ失ヒタルモノヲ謂フ其ノ遺失ハ他人ノ家又ハ道路ニ於テ爲シタルモノニ限リテ自己ノ家宅内又ハ邸内ニ於テ其所在ヲ遺忘シタルモノヲ謂フニ非ズ本罪ニハ從來遺失物法ノ規定アリ左ニ之ヲ掲ゲテ參考ト爲ス而シテ同法第十六條ノ規定ハ本條ノ規定アリタル爲メニ自カラ消滅スルモノト知ルベシ

遺失物法(明治三十二年三月法律第八十七號)



**第一條** 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其物件ヲ返還シ又ハ警察署ニ之ヲ差出スベシ但シ法令ノ規定ニ依リ私ニ所有保持スルコトヲ禁ジタル物件ハ返還スルノ限リニアラス  
物件ヲ警察署ニ差出シタルトキハ警察官署ニ物件ノ返還ヲ受クベキモノニ之ヲ返還スベシ若シ返還ヲ受クベキ者ノ氏名又ハ居所ヲ知ルコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ公告ヲ爲スベシ

**第十二條** 誤ラ占有シタル物件他人ノ置去リタル物件又ハ逃走ノ家畜ニ關シテハ本法及ビ民法第二百四十條ノ規定ヲ準用ス但シ誤テ占有シタル物件ニ關シテハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ズ

**第十三條** 埋藏物ニ關シテハ第七條ヲ除ク外本法ノ規定ヲ準用ス  
學術技藝若クハ考古ノ資料ニ供スベキ埋藏物ニシテ其所有者知レザルトキハ其所有權ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ國庫ハ埋藏物ヲ發見者及埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ニ通知シ其價額ニ相當ナル金額ヲ給スベシ  
埋藏物ノ發見者ト埋藏物ヲ發見シタル土地ノ所有者ト異ナルトキハ前項ノ金額ハ折半シテ之ヲ給スベシ

本條ノ金額ニ不服アル者ハ第二項ノ通知ノ日ヨリ六ヶ月内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

漂流物トハ河海ニ浮流セル物ニシテ是亦遺失物ノ一種ナリトス此物モ亦元トヨリ無主物ニアラス之ヲ拾得シテ自己ノ保有ニ移ストキハ本罪ヲ構成ス

人ノ占有ヲ離レタル物トハ例ヘバ飼養セル鳥獸ノ飼養者ノ手ヲ離レテ他所ニ飛來リ逃レ來タリタル物ニシテ此等ノモノハ未ダ飼養者ノ保有ヲ全ク離レタルモノニ非ザレバ之ヲ他人ガ保有スルトキハ横領ノ罪トナルナリ

**第二百五十五條** 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

〔意義〕 本章ノ罪ニ付テモ直系血族配偶者及ビ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テハ其罪ヲ問ハズトシ其他ノ親族又ハ其家族ノ間ニ在テハ其罪ヲ問フモ之ヲ親告罪トシテ本人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ問フモノトス

**第三十九章 贓物ニ關スル罪**

**第二百五十六條** 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ



千圓以下ノ罰金ニ處ス

【意義】 本罪ハ犯罪ニ依テ得タル物件ヲ其情ヲ知テ之ヲ收受シ其他寄藏、故買又ハ牙保スル行爲ナリ要スルニ犯罪ニ依テ得タル物件ヲ被害者ヲシテ贓物ノ發見ヲ困難ナラシメ若クハ其回復請求權ノ行使ヲ困難ナラシムルニ在リ今其行爲ヲ分析説明シテ本條ノ意義ヲ明ニスレバ左ノ如シ

第一 贓物ナルコトヲ要ス贓物トハ強竊盜其他詐欺取財等ノ犯罪ニ依テ得タル物件ヲ云フ故ニ此等ノ物以外ノ權利ヲ包含セズ且ツ此等ノ物ハ直接ニ犯罪ニ依テ得タル物ニ限ルナリ故ニ例ヘバ竊盜ニ依テ得タル物ト交換セラレ其物ノ性質ヲ變ジタルトキ又ハ其物ヲ賣却シタル代金ノ如キ物ヲ包含セズ

第二 本罪ヲ構成スルノ所爲 贓物ハ必ズ犯人ノ手ヨリ賣買、交換、讓渡等ヲ爲ス者ナレバ此等ノ間ニ於テ周旋スル者アリ即チ前ニ述べタル運搬、寄藏、故買又ハ牙保等ナリ今左ニ之ヲ細別シテ説明スレバ

(一) 運搬 贓品ナルコトヲ知テ犯罪ノ場所又ハ賣買交換等ノ場合ニ本人ノ依託ヲ受ケテ他所ニ持チ去ル者ヲ云フ

(二) 寄藏トハ不正ノ盜品ナルコトヲ情ヲ知テ直接間接ニ寄託ヲ受ケテ隱匿スル罪即チ

其贓物ノ前所有者ニ對シテ其贓物ノ發見ヲ防キ又ハ不能ナラシムルコトヲ謂フ

(三) 故買 不正ノ品ナルコトヲ情ヲ知テ賣買交換スルヲ謂フナリ

(四) 牙保 不正ノ品ナルコトヲ知リテ賣買、質入、交換ノ周旋ヲ爲ス者ナリ

但シ物ノ引渡アリタルコトヲ要ス即チ双方ノ間ニ立チテ物ノ引渡ヲ爲スベキトキノ媒介者ナリ

本罪ノ目的物ハ犯罪ヲ直接ノ手段トシテ得タル物件タルコトヲ要スルガ故ニ本罪ノ所爲アル前ヨリ既ニ財物ニ對スル罪ノ成立シタルコトヲ要ス故ニ正當ナル物件ナルトキハ本罪ヲ構成セズ例ヘバ受寄ノ財物ヲ賣却スル場合ニ於テ受寄物賣却費消罪ハ賣買ノ合意ニ依テ成立シ賣買ノ申込ノミニテハ未遂ニ止マルガ故ニ情ヲ知テ之ヲ買取ル者ニ對シテハ贓物ヲ故買シタル罪ヲ以テ論ズルコトヲ得ザルガ如シ然レドモ受託者ガ寄託物ヲ騙取拐帶シタル後ニ於テ之ヲ他人ニ讓渡シ情ヲ知テ收受若クハ故買スル者ハ本罪ヲ構成スベキモノトス犯罪ニ依リテ得タル物タルコトヲ要ス故ニ犯罪ノ要素タル意思ト責任能力ナキ者ニ於テ得タル物件ハ犯罪ニ依テ得タル物ト云フコトヲ得ザルガ故ニ之ヲ贓物ト云フコトヲ得ザルナリ從テ此財物ヲ以テ本罪ヲ構成セズ

買主ガ賣買ノ後ニ至リ目的物ガ不正ノ品ナルコトヲ知テ其引渡ヲ受ケタル所爲ハ贓物故買



罪ヲ構成スベキモノトスルハ近キ判決例ニ見ル所ナリ今其判決例ノ要旨ヲ撮グレバ左ノ如シ

(判決例) 贓物ヲ牙保故買收受寄藏タルノ所爲ハ被害者ヲシテ贓物ノ發見ヲ困難ナラシメ若クハ其回復請求權ノ行使ヲ困難ナラシメ時トシテハ之ヲ不能ナラシムルノ結果ヲ生ジ若クハ之ヲ生ズルノ危険アリ以テ財産ノ不法占有ヲ安全ナラシムルニ至ルノミナラズ主犯者ノ罪跡ヲ湮滅スルノ虞アルヲ以テ之ヲ罪トシテ罰スル者ニシテ贓物ヲ賣買シ其引渡ヲ受ケタルトキハ其結果ハ一層重大ナルガ故ニ故買罪ハ買主ガ賣買後ニ至リ其目的物ノ贓物タルコトヲ知リテ其引渡ヲ受ケタル場合ニ於テモ亦成立スルコト勿論ナリ云々

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者

ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ説明ヲ要セズ故ニ之ヲ略ス

横領ノ罪

- (甲) 贓物ノ意義 (贓物トハ強姦盜其他詐欺取財等ノ犯罪ニ依テ得タル物件ヲ云フ)
- (一) 一贓物ヲ收受スルコト (收受トハ犯罪人ノ手ヨリ不正品ヲ受取り自己ニ保有スルコトヲ云フ)
- (二) 寄藏スルコト (情ヲ知テ直接間接ニ寄託ヲ受ケテ隠匿ス)
- (三) 故賣 (不正ノ品ナル情ヲ知テ賣買交換スルヲ謂フ)
- (四) 牙保 (不正ノ品ナル情ヲ知リ賣買買入ノ周旋ヲ爲ス者)
- (五) 運搬 (不正ノ品ナル情ヲ知リ犯人便宜ノ場所ニ持テ運ブチ云フ)
- (丙) 處分 (收受シタル者ハ三年以下ノ懲役其他ノ者ハ十年以下ノ懲役及ビ千圓以下ノ罰金)

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

〔改正要點〕 舊法ハ官文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造罪中ニ置クト雖モ其罪質全ク異ナリ其排列ノ場所宜シキヲ得ザルヲ以テ改正法ハ之ヲ本章ニ移シ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設ケタルナリ

舊法ニハ自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ貸借契約ノ目的物ト爲リ或ハ之ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其物ヲ毀棄シタル行爲ニ關スル規定ヲ缺クヲ以テ改正法ハ之ヲ補修シタリ



第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

〔意義〕 本條ハ舊法第二百二條後段第二百三條第二項及ビ第二百五條第二項ノ規定ノ趣旨ヲ擴張シ單ニ官文書ノミナラズ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ナリ而シテ舊法第二百二條後段ハ詔書ヲ毀棄スル場合第二百三條第二項ハ官ノ文書ヲ毀棄シタル場合ニシテ第二百五條第二項ハ官吏ノ管掌ニ係ル文書ヲ毀棄シタル場合ニシテ總テ官文書ヲ毀棄シタル場合ノ規定ナリ本罪ハ文書及ビ財物ヲ毀棄スルモノニシテ其文書ハ單ニ一人ノ文書ニ限ラズ汎ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル場合ヲ規定セリ  
公務所ノ用ニ供スル文書トハ官署公署ニ於テ施政上取扱フ事務ニ關スル總テノ文書ニシテ廣ク人民ヨリ差出シタル書類ヨリ帳簿等ニ至ルマデノモノヲ云フ何時ニテモ調製スルコトヲ得ベキ往復文書ノ如キハ包含セズ

財物ハ動産不動産ヲ區別セズ之ヲ毀棄シテ其一部又ハ全部ヲ使用ニ堪ヘザルニ至ラシメタルヲ以テ本罪ヲ構成ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

〔意義〕 權利義務ニ關スル證書トハ賣買、貸借、贈與、讓渡、讓受等ノ金錢物品ニ關スル文書ヨリ遺言書、家督相續其他ノ契約ニ關スル權利義務ヲ設定シタルモノハ之ヲ包含ス而シテ之ヲ毀棄スルニハ其文書ノ一部ヲ毀棄スルモ其文書ノ效力ヲ失フタルトキハ本罪ヲ構成スルモノト謂フベキナリ是其文書ハ權利義務ヲ證スルガ爲メノ文書ニシテ若シ權利義務ヲ證スル效力ヲ失ヒタルトキハ一片ノ反古紙ニ過ギズ故ニ文書ヲ毀棄シタルモ其主要タル權利義務ヲ證スルニ足ルモノナルトキハ文書毀棄罪トシテ處分スルコトヲ得ザルナリ  
文書ヲ毀棄スルニハ單ニ有形上ノ所爲ノミヲ謂フニ非ズ無形的ニ毀棄スルモ亦本罪ヲ構成スルモノトス例ヘバ證書ノ印影ヲ塗抹スルガ如キハ其證書ノ形ヲ損セズト雖モ證書タル效力ハ之無キモノトナル何トナレバ印影ノ塗抹ハ其義務ヲ消滅セシムルノ行爲ナレバナリ要スルニ證書ノ效力ヲ失ハシメタル行爲ハ本條ノ罪ヲ構成スルモノトス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ船艦ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

〔意義〕 本條ハ他人ノ建造物又ハ船艦ヲ損壞シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ罪責ヲ規定シタルモノナリ之ヲ分析シテ説明スレバ即チ左ノ如シ



第一 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞スルコト

第二 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト

第三 惡意アルコト

第一 茲ニ他人ノ建造物ナド云フトキハ同居ノ人ガ損壞シタルトキノ如キハ他人ノ建造物ト謂フコトヲ得ザルモノトス建造物トハ家屋、倉庫、納屋、工場ノ如キ建造物ヲ謂フ而シテ此等ノモノハ其附屬物ナル戸障子、門戸、シヤウキ牆壁ノ如キモノヲモ包含ス之ヲ損壞シテ其使用ヲ失フニ至リタルヲ以テ本罪ヲ成立スルモノトス而シテ他人ノ所有ニ屬スルトキハ家屋ノ如キハ其當時ニ他人ノ住居スルト否トヲ問ハザルナリ

第二 因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト此罪ハ獨立ノ罪ニ非ズシテ他人ノ建造物ヲ損壞シタル結果ニテ人ヲ傷害スルモノナレバ建造物損壞ノ罪ニ對シテ加重スルノミ故ニ人ヲ死傷ニ致スガ獨立ノ罪ナルトキハ傷害ノ一罪ヲ構成シテ本條ノ問フ所ニアラザルナリ

第三 惡意アルコトヲ要ス故ニ犯意アリテ其建造物等ヲ毀棄シタルヲ以テ本條ノ罪ヲ構成ス若シ過失ニ出デタルトキハ其罪ヲ論ズルノ限ニアラズシテ民事上損害賠償ヲ要求セラ  
ルノミ

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタ

ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

【意義】 前三條ニ記載シタル以外ノ物トハ動産タル器物ノ如キ又ハ牛馬鳥類ヲモ包含ス器物ニ付テハ其形ヲ損壞シタルトキハ本罪ヲ構成シ其價值ヲ減スル程度ヲ問ハザルナリ只其ノ傷害ノ意義ヲ廣クシテ家畜等ノ生活セル動物ヲモ包含セシメタルハ本條ノ前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害ト云フ文字ヲ使用シタル所以ナリ

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸

シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

【意義】 自己ノ物ト雖モ已ニ差押ヲ受ケ或ハ物權ヲ負擔シテ質物又ハ抵當物トナリ又ハ之ヲ賃貸シテ他人ニ占有權アルモノトナリタルトキハ他人ノ保管ニ關スルモノニシテ自己ガ勝手ニ處分スル權利ヲ失ヒタルモノナレバ之ニ對スル義務ヲ終リ完全ニ處分權ノ復スルマデハ之ヲ損壞シ又ハ傷害シタルトキハ其罪責ハ前三條ノ例ニ依リテ處斷スルモノトス本條ノ如キ場合ハ前ニ之ヲ見ルコト多シト雖モ前ニ在リシ場合ハ所有權又ハ保管ヲ侵害スル所爲ニシテ本條ノ如ク物體其物ヲ損壞シ傷害スル場合ト異ナリ

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若ク



ハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

【意義】 第三百三十三條ノ場合ハ秘密ヲ侵スト云フ側ヨリ來タルモノニシテ本條ハ之ヲ隱匿スル場合ナリ即チ本條ノ場合ハ信書ヲ一ノ物件ト認ムルモノニシテ隨テ刑ノ權衡ヲ異ニシタルモノナリ是レ其罪前ニ比シテ重クシタル所以ナリ而シテ隱匿スルトハ之ヲ受信人ヲシテ受取ルコトヲ得ザルニ至ラシムルヲ云フナリ

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告

訴ヲ待テ之ヲ論ス

【意義】 本條ハ本章中親告罪トスベキ場合ヲ規定シタルモノナリ

本條ノ親告罪トスベキモノハ或ハ細小ノ器物其他ノ動産ニ對スル毀棄罪ノ如キ之ヲ訴追シ法廷ニ於テ曲直ヲ正スガ如キハ却テ被害者ニ煩累ヲ及ボシ迷惑ヲ感ズルコトアルヲ以テナリ殊ニ信書ノ如キハ公ニスルコトヲ憚ルコトアルモノニ付テハ最モ被害者ノ事情ヲ斟酌スベキノ必要アリテ本條ヲ規定シタル所以ナリ

毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第一成立條件

第二親告罪

(一) 文書ヲ毀棄スルコト

(イ) 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者  
(ロ) 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者  
(ハ) 處分(イ)ノ場合ハ三月以上七年以下ノ懲役(ロ)ノ場合ハ五年以下ノ懲役

(二) 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞スルコト

(一) 他人ノ所有ニ係ル家屋、倉庫、納屋、工場ノ如キ建造物ヲ損壞シタル者  
(二) 因テ人ヲ死傷ニ致シタル者  
(三) 處分(一)ニ從テ處斷ス

(三) 前ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞スルコト

(一) 前三條ニ記載シタル以外ノ物即チ動産タル器物又ハ牛馬鳥類ノ如キモノヲ傷害シタル者  
(二) 處分(一)ニ從テ處斷ス

(四) 他人ノ保管ニ係ル物ヲ損壞スルコト

(一) 自己ノ物ト雖モ差押テ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ貸貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルコト  
(二) 處分(一)ノ例ニ依リ處斷ス

(五) 信書隱匿ノ行為

(一) 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者  
(二) 處分(一)ノ例ニ依リ處斷ス

權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル場合、器物又ハ牛馬鳥類ノ如キモノヲ損壞又ハ傷害シタル者、他人ノ信書ヲ隱匿シタル場合ハ親告罪トシテ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ズ

正 刑 法 講 義 圖 解 (終)



## 改正 刑法施行法講義

【講】 法律ニハ實體法ト形式法トアリ實體法トハ法律ガ實物ニ就テ直チニ行ハル、モノヲ謂フ即チ商法、民法、刑法ノ如キモノ是ナリ而シテ此等ノ法律ハ自動的ノモノニ非ズシテ之ヲ應用スベキ法律アルヲ要ス此ノ應用シ活用スル法律ヲ形式的法律ト謂フ即チ民事訴訟法、刑事訴訟法及ビ此ノ施行法ノ如キ手續法ナルモノ是テリ故ニ實體法ト形式法トハ相須テ行ハル、モノニシテ單獨ニ行ハル、モノニ非ザルナリ若シ單獨ニ行ハル、實體法ハ之ヲ單行法律ト云フベシ然ラバ則チ形式法ニ依リ應用スベキ法律ノ發布アリタルトキハ必ず之ガ手續法ノ發布ナカルベカラズ是ヲ以テ刑法ノ如キハ刑事訴訟法ノアリテ其手續法備ハレリト雖モ刑事訴訟法ハ刑法ニ定メタル刑罰ヲ適用スベキ手續ニシテ刑法ノ改正廢止ノ條項ニ付テ其ノ運用法ヲ規定シタルモノニアラズ是レ本條ノ發布アル所以ナリ

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅



令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

【講】 此施行法ニ於テ舊刑法ト稱スルモノハ明治十三年發布セラレタル第三十六號布告刑法ヲ謂フナリ他ノ法律ト稱スルハ今回改正セラレタル刑法ノ施行以前ヨリ公布アリタル法律及ビ勅令、布告ヲ謂フモノナリ而シテ此等ノ法律及ビ勅令布告ハ改正刑法ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フトス即チ此等ノ勅令、布告ニモ刑罰ヲ定メタル條項アルヲ以テ此等ノ條項ニシテ刑法ト同一ノ效力ヲ有スルモノハ刑法ノ規定ニ依ラズシテ其刑罰ハ行ハル、ヲ以テナリ其中ニ特ニ刑法ノ規定ニ從フベシト云ヒタルモノハ此限ニ在ラザルナリ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ、付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

- |      |       |
|------|-------|
| 死刑   | 舊刑法ノ刑 |
| 無期懲役 | 無期徒刑  |
| 無期禁錮 | 無期流刑  |

【講】 本條ハ改正法ト舊刑法トノ罪ヲ對照スル方法ヲ規定シタリ

刑罰ハ既往ニ遡ラズトスルノ原則ハ舊法ガ定メタル刑罰ハ其後ニ至リテ時世ニ適セズ且ツ其重キニ失スル等アルヲ以テ之ヲ改正シタルモノナレバ其舊法ニ比シテ輕キニ從フベキハ當然ナリ是ヲ以テ刑法ノ改正アリタルトキハ其刑法施行前ニ犯シタル罪ト又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル時其ノ罪ヲ處斷スルニ新刑法ヨリ重キ罪ニ罰スルコトヲ得ザルモノナレバ其ノ犯罪ノ當時ト新刑法施行後ト異ナルトキハ如何ニシテ其輕重ヲ定ムルヤト云フニ本條ハ此ノ場合ニハ新刑法ノ主刑ト舊法ノ主刑トヲ對照シテ新刑法第十條ノ規定ニ依リテ其輕重ヲ定ムルモノトス

元來刑ノ輕重ハ刑名ニ依ルモノニ非ズ其ノ輕重ハ死刑ヲ除クノ外ハ刑期ノ長短金額ノ多寡

- |      |                  |
|------|------------------|
| 有期懲役 | 有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮 |
| 有期禁錮 | 有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮 |

- |    |    |
|----|----|
| 罰金 | 罰金 |
| 拘留 | 拘留 |
| 科料 | 科料 |



ニ依リ輕重ヲ論ズルモノナレバ必ズ刑名ニ因ルモノト云フベカラズ故ニ同ジク懲役ト雖モ無期有期アリ有期ノ中ニモ亦長短アリ加之ズ新刑法第十條ノ規定ニ依ルトキハ懲役ハ禁錮ヨリ重キ性質ノ罪ナレドモ有期禁錮ノ長期ガ有期懲役ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス其他二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ビ短期若クハ寡額ノ同ジキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ムルモノトス

四

今茲ニ一例ヲ擧グレバ新法ニ無期懲役トシタルモノハ舊法ノ無期徒刑ニ相當シ無期禁錮ハ舊法ノ無期流刑ト對照スルモノトアルニ依レバ舊法ノ當時ニ無期流刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者ヲ罰スルニ無期懲役ヲ以テスレバ新法ノ刑重キモノトナル何トナレバ其性質上徵役ハ流刑ヨリ重キモノナレバナリ然レドモ新法ノ有期懲役ニハ舊法ノ有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮ノ數種ヲ併合シタルモノナレバ舊法ノ數種中刑期ノ長短ヲ斟酌シテ定メザルベカラズ

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可

キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

【講】 本條ハ刑ノ對照ヲ爲スニハ先ヅ刑ヲ加重減輕シ又ハ酌量減輕ヲ爲スベキトキニ其對照方法ヲ規定シタルモノナリ

刑ノ對照ヲ爲スノ必要ハ新舊刑法ノ刑ニ輕重アルニ依リ其刑孰レニ從ヒ處斷スベキモノトスルヤニ付テ其輕キ刑ヲ適用スベキ爲メニ爲スモノナレバ法律ニ依リ刑ヲ加重減輕スベキトキ又ハ酌量減輕ヲ爲スベキトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後ニ刑ノ對照ヲ爲スベシトス是レ酌量減輕ノ如キハ裁判官ニ其自由ヲ與ヘタルモノナレバ死刑ニ該ルベキ犯罪モ之ヲ酌量シテ無期刑ニ減輕スルコトヲ得ベケレバナリ而シテ舊法ニハ輕罪ノ刑ニ付テハ一等又ハ

五



二等ヲ減ズルモ其減等ノ法ハ本刑ノ四分ノ一ヲ減ズルヲ以テ一等ト爲スガ故ニ犯人ハ猶ホ本刑ノ範圍内ニ於ケル刑期金額ニ處セラル、コトアルベク隨テ酌量減輕ノ利益ヲ受ケザル場合アルベシ又加重ノ場合ニモ舊法ニハ重罪ノ刑ニ在リテハ刑名一ヲ以テ一等トナスモ新法ハ重罪輕罪ノ刑名ヲ廢シタレバ加重スルニハ死刑ヲ除ク外ハ刑期ノ長短ニ依リテ刑名ニ依ラズ故ニ新法ニ加重減輕シテ後チ舊法ノ刑ト對照スルモノトス

舊法ニハ數罪俱發トシ新法ニハ併合罪トシテ其適用法ヲ異ニスルヲ以テ舊法當時ノ數罪俱發ヲ犯シタル者ニ對シテハ新法ノ併合罪ニ關スル規定ヲ適用シテ其刑ノ定リタル後ニ對照スルモノトス

第三項ハ二個以上ノ主刑ヲ併科スベキトキハ其中ノ重キ刑ノミニ付テ又併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ二個以上ノ主刑ヲ併科スベキトキモ亦其中ノ重キモノニ付テ對照スルモノトス例セバ舊法第百條ト新法第四十七條ノ場合ニ對照スルガ如キ是ナリ

**第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非ツレハ其罪ヲ論セス**

〔講〕 親告罪トスルハ被害者ノ不名譽ニ關スル罪ナル性質ノモノナレバ親告罪トシタル所

以ナリ然ラバ何レノ時代何人ニテモ同一ナリ即チ舊法又ハ他ノ法律ノ規定ニテハ親告罪ト爲セシモノハ新法ニ於テモ親告罪トセザルベカラズ故ニ假令新法ニハ其ノ規定ヲ見ザルモ舊刑法等ニテ親告罪ト認メタルモノハ之ヲ親告罪トストノ規定ナリ

**第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス**

〔講〕 新刑法ニテハ舊刑法ニ規定シタル剝奪公權ノ附加刑ハ之ヲ廢シタレバ假令新法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合即チ剝奪公權等ノ附加刑ヲ科スベキトキト雖モ之ヲ附加セザルモノトス

**第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル**

- 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テ



ハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ適用シタリト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

【講】 本條ハ新刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ其確定裁判ハ刑法施行前又ハ後ニ在リテ唯ダ其執行以前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ裁判ヲ爲ス時ノ例ヲ規定シタルモノナリ左ニ其例ヲ述レバ即チ

第一 舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シテ確定裁判アリタル罪ト雖モ其罪ト確定裁判後ニ發覺シタル餘罪トノ關係ハ刑法又ハ刑名ニ依リテ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

第二 本項ハ前項ト反對ニシテ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シテ確定アリタル罪ト雖モ其罪ト確定裁判ヲ經ザル餘罪トニ付キテハ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ルモノトス

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當ス

ル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者

- 二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

【講】 本條ハ刑法施行前ニ或ル一罪ヲ犯シ又更ニ一罪ヲ犯シタル罪ガ刑法施行前ニ新刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ナルトキ刑法施行後ニ其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキノ適用例ヲ規定シタルモノナリ而シテ其犯罪者ハ本條第一第二號ニ記載シタル者ニ限ルコト、シ



タリ

此等ノ者ヲ新刑法ニ依リ裁判ヲ爲ストキハ新刑法又ハ新刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス是レ第一項ニ規定スル如ク舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ新刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者ナルヲ以テナリ

**第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス**

【講】 本條モ亦併合罪ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付テ之ヲ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス是レ法律ハ新舊ヲ比照スルトキハ其輕キニシテ被告ニ利益ナルモノヲ適用スルニ在リテ本條ノ場合ハ單ニ舊刑法ノ時代ニ犯シタル罪ノミニ非ズシテ新法施行後ニ犯シタル罪ト同時ニ裁判ヲ爲スベキヲ以テナリ而シテ假令ヒ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スベキトキト雖モ其罪即チ新法

施行前ノ罪ト新法施行後ノ罪トニ付テハ併合罪ニ關スル規定ニ依リ處斷スルモノトス

**第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス**  
前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

【講】 舊刑法ニ於テハ數罪俱發ノ場合ニハ其罪ノ中一ノ重キモノニ付テ刑ヲ適用スレドモ新法ハ併科主義ヲ採リタルヲ以テ刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付テ同時ニ裁判ヲ爲ストキニハ刑法施行前ノ罪ニハ一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付テハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス  
然レドモ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキ



ハ其刑法施行前ノ數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ヲ適用スルモノトス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

【講】 本條ハ新刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後新刑法施行前ノ餘罪ガ發覺シタル場合ヲ規定シタルモノナリ

併合罪ハ確定裁判ヲ經ザル數罪ヲ併合罪トシ其中ノ一罪ニ付テ確定裁判アリタルトキハ其確定裁判アリタル罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トスルハ刑法第四十五條ノ規定スル所ナリ本條ハ即チ此ノ規定ノ適用ノ場合ヲ規定シタルモノナリ

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖

モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

【講】 刑法施行前ニ犯シタル罪ガ刑法施行後ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シテ確定裁判アリタル後即チ刑法施行後ニ犯シタル餘罪トニ付テ裁判ヲ爲スニハ前ノ確定裁判アリタル罪ト餘罪トニ付テ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス  
第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

【講】 第七條第一項ノ一號二號ニ記載シタル者ハ新刑法施行前ニ新法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シテ刑法施行後其罪ニ付テ裁判ヲ受クル者ナレドモ本條ハ刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニシテ第七條ノ場合ト同ジク累犯ニ關スル規定ヲ準用ス  
第七條第二項ノ規定ハ本條第一項ノ場合ニ之ヲ準用スルモノトス第七條第二項ノ規定トハ刑法第五十六條第三項ノ規定ニシテ併合罪ニ付テ處斷セラレタル者ガ其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最終ノモノニ非ズト雖モ之ニ再犯例ヲ適用スルトキハ其刑ハ懲役ニ處セラレタルモノト看做スノ規定ナリ而シテ此ノ規定ハ併合罪ニ關スルモノナルヲ



以テ舊法ノ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用スルハ第七條第二項モ同一ナリトス右ノ規定ハ本條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ストシタルハ兩條トモ累犯ニ關スル規定ヲ準用スル場合ナレバナリ

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セ

ラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

【講】本條ハ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テ新舊法孰レニ依ルヤノ場合ヲ規定シタルモノナリ

舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法律命令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ新刑法施行後ハ刑ノ執行假出獄及ヒ時効ニ付テハ新刑法ノ規定ヲ準用スルモノトス法律ノ效力ハ既往ニ遡ラザルヲ原則トスレドモ此等ノコトハ新法ニ依ルモ既得權ヲ害スルコトナキノミナラズ却テ囚人ニ利益ヲ得セシムルニ在レバナリ

然レドモ罰金又ハ科料ニ處セラレタル者ハ自由刑ト異ナレバ本人ノ意思ニ從フ場合アリ即チ若シ罰金ヲ完納スルコト能ハザル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所ノ決定ヲ以テ其言渡ヲ爲スベシトス

舊刑法ノ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ノ規定ト新刑法ノ規定トハ異ナルモノナレバ如何ニ之ヲ準用スベキヤト云フニ此ノ場合ニハ本法第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リテ主刑ヲ對照スベキモノトス例ハ舊法ノ刑ハ無期徒刑ニ處セラル、者ナルトキハ新法ノ無期徒刑ト對照シ又假出獄ノ場合ニハ舊刑法ハ有期徒刑ニ付テハ其刑期四分ノ三無期徒刑ニ付テハ十五年ヲ經過シタル後假出獄ノ恩典ヲ與フルコト、爲シタリト雖モ改正法ハ有期徒刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期徒刑ニ付テハ十年ト爲シタレバ之ト對照シテ適當ニ準用セザルベカラズ又時効ニ付テハ舊法ノ無期徒刑ハ二十五年トシタレドモ新法ハ無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年ト改メタルヲ以テ之ト對照スルトキハ其輕キ方二十年ヲ以テ時効ヲ完



成セシメザルベカラズ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ビ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フモノトス期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遁レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ビ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算シ缺席裁判ニ係ルトキハ其宣告ノ日ヨリ起算ストシタリ新法ハ刑期ハ總テ裁判確定ノ日ヨリ起算スルモノトスルニ依リ新法ニ依ルトキハ犯人ニ不利益ナルコトアルヲ以テ舊法ノ期滿免除ニ從フモノトスルニ在リ又時効ノ中斷ハ舊法ハ逮捕ヲ命ジタル時ハ最終ノ合狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ストシタリ新法ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ依リ之ヲ中斷シ罰金科料及ビ沒收ノ時効ハ執行々爲ヲ爲シタルニヨリ之ヲ中斷スト爲シタリ此ノ如ク異ナル點アリテ舊法ニ依ルヲ利益トシテ本條ハ舊法ノ期滿免除ニ關スル規定ニ從フモノトス

**第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶**

**豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス**

**前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ**

【講】舊法ノ刑ノ執行猶豫ハ死刑ト懷胎ノ婦女子ニ付テノミ之ヲ設クト雖モ新法ハ此ノ他猶ホ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ノ情狀ニ一年以上五年以下ノ期間内其ノ

執行ヲ猶豫シ其期間内再ビ刑ヲ犯サル者ハ刑ヲ全免スルモノトス其犯人ニ恩典ヲ與フルコト大ナレバ是亦新法ノ規定ヲ準用ストシタリ尤モ此ノ場合ニハ第二條ノ例ニ依リテ主刑ノ對照ヲ爲ス可シトス

**第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタ**

**ル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用**

**ス**

**刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘ**

**ラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條**

**ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八**

**條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス**

【講】本條ノ規定ハ舊法ニテ假出獄ヲ許サレタル者及ビ免幽閉ヲ免セラレタル者ハ新刑法施行ノ日ヨリ新法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用スルモノトス然ラバ則チ其假出獄中ニ新法第二十九條ニ該當スル行爲アリタルトキハ同條ニ依テ其假出獄ノ恩典ヲ取消スコト、ナル舊法ニ依リ罰金又ハ科料ヲ完納セザル爲メ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ換ヘラレタル者ニ付テハ



新刑法施行ノ日ヨリ同第十八條ノ規定ニ從ヒ完納スルコト能ハザル者ニ付テ留置スルコト  
トス而シテ留置ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ起算シテ第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ザル  
モノトス若シ舊法ノ規定ニ依リ既ニ一部ヲ經過シタルトキナラバ新法ノ期間ト通算シテ新  
法ノ期間内ニ短縮スルモノトス

舊法ノ規定ニ依リ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者モ新法施行ノ日ヨリ情狀ニ依リ何時ニ  
テモ行政官廳ノ處分ヲ以テ仮ニ出場ヲ許サル、コトアルナリ

**第十六條** 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但

司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコ  
トヲ得

【講】 舊法ノ懲治場留置ノ處分ハ其ノ趣旨ガ今日ノ感化院ニ似タルモノナリ此留置ノ處分  
ヲ受ケタル者ハ不良少年ニシテ法律上一般ノ刑ニ處スル能ハザル者ナレバ別ニ監獄内ニテ  
懲治ノ爲メ留置スル方法ヲ設ケタルナリ新法ニハ此ノ留置ノ規定ナキヲ以テ猶ホ舊法ノ規  
定ニ從ヒ之ヲ留置スルモノトス但シ司法大臣ニ於テ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ  
入院セシムルコトヲ得ルモノトス

**第十七條** 關席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨ

リ之ヲ起算ス

【講】 刑ノ時効期間ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スルモノナレドモ若シ關席判決ノ場合ニ刑ノ  
時効ハ規定ナキヲ以テ疑ヲ生ズルガ故ニ本條ハ之ヲ規定シテ對席判決ノ場合ト同ジク裁判  
言渡ノ日ヨリ之ヲ起算スト爲シタリ關席判決ハ被告人ガ故障又ハ控訴ヲ爲スコトヲ得ベキ  
モノナレバ或手續ヲ爲サレバ確定セザルナリ即チ控訴上告ヲ爲シテ其裁判確定スルカ又  
ハ其期間ヲ經過スルニ非ザレバ宣告シタル刑ノ執行力ヲ生ゼズ隨テ時効ノ完成スルコトナ  
シ是レ本條ヲ規定シテ明了ナラシム

**第十八條** 剝奪公權停止公權監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ

日ヨリ其効力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ完納セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同

シ

【講】 舊刑法ニアリシ規定ガ新法ニテ其刑ヲ廢シタルトキハ舊刑法ノ規定ニ依リ處罰スベ  
キ者ト雖モ新法ニ依リテハ其刑ヲ免ル、ハ當然ナルベシ新法ニテ剝奪公權、停止公權、監  
視及ヒ附加刑ノ罰金刑ハ之ヲ廢シタリ故ニ舊刑法ニテ此等ノ言渡ヲ爲シタル者ハ新法ニ從



ヒ其效力ヲ失フモノトス但シ罰金ハ一旦之ヲ科シタル以上ハ本人ニ還付セザルナリ  
本條第二項ノ規定ハ前項ニ述ベタル理由ニヨリ明カニシテ既ニ罰金刑ヲ附加スルコトヲ廢  
シタルバ之ニ換ヘタル禁錮ノ刑モ消滅スルハ當然ノ理ナリ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ  
對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ  
懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權停止公權監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可  
キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

【講】 本條ハ他ノ法律ニ定メタル主刑ノ刑名ヲ新刑法ニ依リ變更スベキコトヲ規定シタル  
モノナリ

舊刑法ヲ除キ他ノ法律ニ定メタル主刑ハ本法第二條ニ依リ新刑法ト對照シテ適用スベキモ  
ノナレバ其刑名ニ新刑法ニナキモノアルトキハ之ヲ新刑法ニ對照シテ新刑法ノ刑ニ相當ス  
ル刑名ニ變更スルモノトス是レ名ト實ト相一致スルヲ必要トスレバナリ然ルニ他ノ法律ニ  
單ニ禁錮トアルトキハ之ヲ新刑法ノ有期ノ懲役又ハ有期ノ禁錮ニ變更スルモノトス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更ス  
ス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑

法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

【講】 他ノ法律ニ定メタル刑ハ其ノ犯罪ノ性質ガ刑法ノ犯罪ノ性質ト異ナルモノナレバ其  
ノ刑ノ輕重モ亦同一ナラズ故ニ單ニ刑名ヲ變更スルコトヲ爲スモ其ノ刑ノ期間又ハ金額ハ  
之ヲ變更セズ若シ之ヲ變更スルモノトセバ刑ノ輕重ヲ變更スルモノトナル然ルトキハ他ノ  
法律ノ刑ノ性質ニ反スルニ至ルナリ然レドモ他ノ法律ニ於テ刑ノ期間又ハ金額ヲ定メザル  
刑ニ付テハ刑法ノ規定ニ從ハザルベカラズ而シテ此ノ場合ニハ新刑法ノ規定ニ從ハズ仍ホ  
舊刑法ノ總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フモノトス

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於  
テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依  
ル

【講】 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕スベキ場合ニハ舊刑法ノ加減例ニ關スル規定  
ニ依ルモノトスルハ他ノ法律ノ刑ノ規定ハ固ト舊刑法ニ依リテ定メタルモノナレバナリ然



ルニ第二十三條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

【講】 他ノ法律中ニハ舊刑法ノ規定ヲ記載シタル場合アリ又ハ舊刑法ノ規定ニ依ルコトヲ定メタル場合モアリ若クハ舊刑法ニ依ラザルコトヲ規定シタル場合アリ此等ノ規定ガ新刑法ノ規定ニ相當スル規定ナルトキハ新刑法ノ規定ニ變更スルモノトス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

【講】 他ノ法律ノ規定ガ新法ノ規定ニ相當スルニ依リ刑法ノ刑ヲ適用スベキ場合ニハ刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ノミ之ヲ適用セザルモノトス是レ新法ハ刑ヲ輕クスベキ爲メニ改正シタルモノナレバナリ然レドモ刑ヲ減輕スベキ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定

ニ從フモノトス是レ刑ヲ輕クスルニ在レバナリ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト

同一ノ效力ヲ有ス

- 一 第二編第三章第五節
- 二 第九十八條乃至第二百條
- 三 第二編第四章第七節及ヒ第九節
- 四 第二編第五章第三節
- 五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

【講】 本條ハ舊刑法ノ規定ノ當分ノ内新刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル條項ヲ明示シタ



ルモノナリ是レ新舊沿革スレバ當然消滅スルモノト明示スルモノト又其效力ヲ維持スルモノトアリ維持スルモノハ必ズ之ヲ明示セザルベカラズ左ノ條項ハ即チ是ナリ

第一第二編第三章第五節 此ノ規定ハ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ビ所有スル罪ナリ

第二第九十八條乃至第二百條 第九十八條ハ官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ビ郵便

切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ

五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條ハ已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ビ郵便切手ヲ再ビ貼用シタル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百條ハ此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ゲザル者ハ未遂罪ノ例ニ照シテ所

斷スト

第三第二編第四章第七節及ビ第九節 第七節ノ罪ハ度量衡ヲ偽造スル罪第九節ハ公選ノ投

票ヲ偽造スル罪

第四第二編第五章第三節 第三節ハ傳染病豫防規則ニ關スル罪

第五 第三編第二章第四節ハ家資分故ニ關スル罪

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 懲兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戶籍法ニ掲ケタル罪
- 十 郵便法ニ掲ケタル罪
- 十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

【講】 本條ニ記載スル事項ハ刑法第二條ノ例ニ從フモノトス刑法第二條ノ規定ハ内外人ノ別ナク帝國外ニ於テ犯シタル罪ニ我刑法ヲ適用スベキ旨ヲ適用シタル者ニシテ其罪ヲ列記



シタルナリ此事項ヲ刑法第二條ノ例ニ從フモノトスレバ何人タルヲ問ハズ帝國外ニ於テ本條ニ記載シタル罪ヲ犯セシトキハ第二條ニ掲グル罪ト同一ニ處罰セラル、モノトス

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
- 二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪
- 三 移民保護法ニ掲ケタル罪

【講】 本條ニ記載シタル罪モ亦刑法第三條ノ例ニ從フモノトス刑法第三條ハ帝國外ニ於テ犯シタル帝國臣民ニ適用スベキ罪ヲ列記シタルモノナリ本條ニ掲ケタル三種ノ事件モ帝國臣民ガ外國ニ於テ之ヲ犯シタルトキハ刑法第三條ノ罪ト同一ニ處罰セラル、モノトス

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲

ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ

【講】 刑法施行ノ爲メニ他ノ法律ノ規定セル刑名又ハ罪別ハ變更セラル、コトアルハ前ニ既ニ其規定ニ依リ明カナリ然レドモ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シテハ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ニ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ變更セラルコトナシトス而シテ人ノ資格ニ關スル事トハ舊

刑法第三十一條ニ掲グル公權ヲ有スルヲ謂フ此等ノ公權ハ日本臣民ノ資格ニシテ刑法ニ依リ刑名又ハ罪別ヲ變更スルコトアルモ爲メニ之ヲ變更セラル、コトナキモノトス

第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪

ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス

【講】 他ノ法律ニ依リ死刑無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ舊刑法ノ規定ニハ重罪ト看做スモノトス死刑無期刑ハ固ヨリ重罪タルベキハ論ヲ待タザルニ本條ニ特ニ之ヲ規定シタルモノハ舊法ニハ刑ニ重罪輕罪ノ刑名ヲ區別シタルガ故ニ此等ノ刑ハ即チ舊法ニ重罪ノ刑ト爲シタルヲ以テナリ

第二十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他

ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス



前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

【講】 前條ニ該當セザル罪トハ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役ニ該ラザル罪即チ是ヨリ以下ノ罪ヲ謂フナリ此等ノ罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ輕罪又ハ禁錮ニ該ル罪ト看做スナリ

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

【講】 未遂罪ヲ罰スルハ總則ニ從フノ外各條ニ規定スルモノナレドモ他ノ法律ニ此ノ規定ナキトキニシテ其罪ガ死刑、無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノ、未遂罪ハ之ヲ罰スルコトヲ明示シタルナリ此等ノ罪ハ皆重罪ナルヲ以テ未遂ヲモ罰スルノ必要アリトスルニ依ルナリ

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタ

ル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

【講】 本條ノ規定ハ第二十九條ノ規定ト殆ト同一ノ如クナレドモ同條ハ刑ノ適用上ニ付テ規定シ本條ハ既ニ刑ニ處セラレタル場合ノ規定ナレバ前ノ場合ハ未ダ裁判確定セザル場合アルモ本條ハ裁判確定シテ刑ノ執行ヲ受ケタル者ニ就テ規定シタルモノナリ

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

【講】 本條ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ當然公權ヲ剝奪セラレタル者ト看做ス場合ヲ規定シタリ

舊刑法又ハ他ノ法律上重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ附加刑トシテ當然公權ヲ剝奪セラル、者ナレバ前條ニ記載シタル罪ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタル者ト看做スナリ



前項ノ規定ハ復権ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セズトス是レ刑ハ之ヲ取消ストキハ無垢ノ人ト同一ニ看做スモノナレバナリ復権ハ舊刑法第六十三條ニ定メタル期間ヲ經過シタル後刑事訴訟法第三百二十四條ノ規定ニ從ヒ復権願ヲ差出シ其ノ許可ヲ得ルモノナリ

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレ

タルモノト看做ス

【講】 本條ハ公權ヲ停止セラレタル者ト看做ス場合ノ規定ナリ公權停止ハ舊刑法第三十三條及ビ第三十四條ニ規定シタルナリ公權ノ停止ハ舊刑法ニ於テ禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒズ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止セラレ、モノトス而シテ本條ニ依レバ刑ノ執行ヲ終ルマデノ外其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマデ公權ヲ停止セラレタルモノト看做スト規定シタリ刑ノ執行ヲ受クルコトナキトハ時効ニ依リテ刑ヲ免レタル者ヲ謂フ

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

【講】 人ノ資格ニ關シ他ノ法律ニ於テ別段ノ規定ナキ場合ニ付テハ舊刑法ノ此ノ規定即チ第三十一條ノ剝奪公權第三十三條ノ公權停止ノ規定ハ新刑法施行後モ仍ホ施行前ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス是レ新法ニハ此ノ附加刑ナキヲ以テ他ノ法律ニモ新刑法施行後ハ此



ノ規定ニ依ルコトヲ得ザルガ如ク思フガ故ニ本條ヲ規定シ同規定ノ效力ヲ維持セシメタリ

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
- 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

【講】 刑事訴訟法第八條ハ公訴ノ時効ヲ完成スル期間ト罪ノ種類トヲ明ニシタルモノナリ即チ公訴ノ時効ハ本條第一號ヨリ第六號ニ至ル期間ヲ經過スルニ因テ完成スルモノトス而

シテ其罪ノ種類ニ從ヒ期間ニ長短アリトス是レ犯罪ノ情狀重キハ社會ノ遺忘スルコト遲ク犯罪ノ情狀輕キハ社會ノ者モ之ヲ遺忘スルコト速カナルノ理由ニ依ルモノナリ

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致可シ

【講】 刑事訴訟法第六十二條ハ地方裁判所檢事ガ犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキノ手續ヲ爲ス可キ規定ナリ其捜査ノ結果其ノ犯罪ノ事件ガ區裁判所ノ管轄ニ屬スル者ト思料シタルトキハ其證據書類ニ意見書ヲ添ヘテ之ヲ區裁判所ノ檢事ニ送ルモノトス之ヲ修正シタル理由ハ同條第三號ハ裁判所構成法第十六條第二號第三號ニ記載シタル輕罪又ハ違警罪ト思料シタル云々トアリシヲ以テ其裁判所構成法第十六條ハ今回改正シ大ニ其權限ヲ擴張シタルハ舊條項ノ規定ニ從フ能ハザル故ナリ同法第十六條ノ改正ハ左ノ如クナリ

第十六條ノ一 區裁判所ハ檢事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經ザルモノニ限ル

- 第一 拘留又ハ科料ニ該ル罪
- 第二 窃盜ノ罪



第三 窃盜及ビ刑法第二百五十四條ノ罪ノ贓物ニ關スル罪

第四 刑法第三百三十條第三百七十五條第三百八十五條乃至第三百八十七條及第三百九條ノ罪并ニ第三百三十條ノ未遂罪

第五 一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ三百圓ヲ超過セザル罰金ニ該ル罪  
第十六條ノ二 前條第一項第五ニ記載シタル罪ニ付テハ累犯又ハ併合罪トシテ處分スベキ  
場合ト雖モ區裁判所其ノ裁判權ヲ有ス

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第一百八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第三百二十八條中「刑法第一百七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第四百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

【講】 刑事訴訟法第六十七條第三項ヲ削除シタル所以ハ今回改正シタル裁判所構成法第十六條第二號以下ハ豫審ヲ經ザルモノニ限リテ區裁判所ニ權限ヲ屬スルコト、ナリタレバ刑事訴訟法第六十七條第三項ハ豫審ヲ經ベキ事件ニ該ルヲ以テ之ヲ削除シタルモノナリ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム  
第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得



【講】 刑事訴訟法第七十二條ハ「檢察ハ重罪公判ニ付スル決定又ハ免訴若ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得被告人ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得」トアリシヲ改正シテ本條ノ如ク規定タリ改正ノ要點ハ單ニ檢察ノ抗告ヲ許シ被告人ノ抗告ヲ許サズ是レ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シテハ被告人ニ於テ抗告ヲ爲スノ必要ナケレバナリ舊法ノ規定ハ重罪公判ニ付スル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ被告人モ抗告ヲ爲スコトヲ得ベキナリ

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪ノ」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重

罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス

可シ檢察ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事

件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

【講】 本條ヲ説明スルニ代テ舊刑事訴訟法第二百四十一條ノ改正セラレタル點ヲ擧ゲテ明示スルモノトス而シテ點ヲ付シタル字句ハ舊條項ナルコトヲ知ルベシ

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ又ハ、檢察ヨリ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ但被告人拘留ヲ受ケザルトキハ拘留狀ヲ發スヘシ

其被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシム可シ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判

ス可キ旨ノ決定ヲ爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢察ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得



【講】 監獄ニ於テ執行スベキ二個以上ノ主刑ノ執行ニ付テ重キモノヲ先ニスルハ受刑者ニ對シ懲罰ノ效ヲ奏スルニ必要ヨリ爲スモノナリ然レドモ必ズ此ノ規定ニ從フベキモノトスルトキハ實際受刑者ニ於テ堪ヘザル場合ナキニシモアラズ例ヘバ本法第四十九條第二ノ場合ノ如シ此等ノ場合ニハ檢事ノ意見ヲ以テ重キ刑ヲ後ニシテ輕キ刑ヲ先キニ執行ヲ爲スコトヲ得セシム

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スコシ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非ツレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

【講】 本條ハ死刑ノ執行ニ付テ刑事訴訟法ノ規定ヲ補ヒタルナリ此ノ補修シタルニケ條ハ舊刑法ニ規定シアリタルモ新法ニハ之ヲ削除シタルニ依リ本法ニ規定シタルモノナリ蓋シ此ノニケ條ハ死刑執行ノ手續ニシテ實體法ニ規定スベキモノニアラザレバナリ

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
- 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ
- 三 受胎後七月以上ナルトキ
- 四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

【講】 刑ノ執行ヲ受ケタルトキハ直チニ執行スベキモノナルモ本條ニ記載スル事故ノアルトキハ其ノ事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス是等ノ事故アルニモ拘ハラズ刑ヲ執行スルトキハ或ハ受刑者ニ於テ刑ノ苦痛ヲ感ゼザル者アリ或ハ受刑者ニ對シテ却テ殘酷ニ涉ル等ノ弊害アルヲ以テ之ヲ規定シタルモノナリ



第一心神喪失ノ状態ニ在ルトキ 此ノ場合ニ刑ヲ執行スルハ本人ニ於テ其ノ刑ノ何タルコトヲ覺知セズシテ却テ刑ノ執行ノ效ヲ奏セザルコトアルナリ

第二刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハザル虞アルトキ 此ノ場合ハ病氣又ハ其他ノ事由ニテ身體ガ非常ニ衰弱シアルトキノ如シ

第三受胎後七月以上ナルトキ 女子ニシテ懷胎後七ヶ月以上ナルトキ此場合ハ最早分娩期ニ近キタル者ナレバ刑ノ執行ヲ受クレバ出産ノ害トモナルベケレバ之ヲ停止スルモノトス

第四分娩後一月ヲ經過セザルトキ 此ノ場合ハ出産シタル爲ニ未ダ血液ノ舊ニ復セザル時ナレバナリ

第五十條 刑事訴訟法第二百二十條中「之ヲ爲ス可シ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第六十八條、第七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

【講】 舊刑法ニハ復權及ヒ特赦ニ關スル規定アリシニ依リ其手續ガ刑事訴訟法ニ規定アリタレドモ新刑法ニ於テハ此等ノ規定ハ憲法ニ規定シアレバ刑法ニ之ヲ記載スルノ必要ナシトシテ削除シタルヲ以テ其手續法タル刑事訴訟法ノ規定モ之ヲ削除シタルモノナリ

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

【講】 刑法第五十二條ハ併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其中ノ一罪ガ大赦ヲ受ケタル場合ニハ其大赦ヲ受ケザル罪ニ付キ刑ヲ定ムルノ規定ナリ第五十八條第一項ハ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ムルノ規定ナリ以上ノ二條條ハ共ニ一旦犯罪ヲ處斷セラレタル後ニ至リ復タ他ノ罪ニ依リ刑ヲ定ムル場合ナリ此ノ刑ヲ定ムルニハ普通裁判ヲ爲スベキ手續ニ從フモノニ非ズ即チ其ノ犯罪事實ニ付キ最終



ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事ヨリ其裁判所ニ請求ヲ爲ス可キモノトス而シテ此ノ請求ヲ受ケタル裁判所ハ被害人又ハ被告人ノ代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スモノトス尤モ此決定ニ對シテ不服アルトキハ猶豫ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

**第五十四條** 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

【講】 刑ノ執行猶豫ハ當然ニ生ズベキモノニアラスシテ別ニ宣告ヲ爲スヲ要ス而シテ此ノ言渡ハ檢事ヨリノ請求ニ依ルベキ時ト又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ其刑ノ言渡ヲ爲スト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡スベキモノトス檢事ヨリノ請求ハ第四十九條ノ場合ノ如キニ在ルモノナリ

**第五十五條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

**上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得**

【講】 刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル者アルトキ其本人又ハ檢事ヨリ上訴ヲ爲シタリトテ刑ノ執行猶豫ニ影響スルモノニアラス即チ之ガ爲メニ效力ヲ失フコトナシ唯ダ上訴ニ依テ原判決

ガ取消サル、カ又ハ破毀セラレタル場合ニ非ザレバ執行猶豫ノ言渡ハ效力ヲ有スルモノナリ

上訴ニ依リテ原判決ガ取消サル、カ又ハ破毀セラレタル場合ニモ上訴裁判所ハ其裁判ヲ爲シテ之ガ言渡ト同時ニ新タニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

**第五十六條** 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言

渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

**第五十七條** **第五十三條**及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

【講】 **第五十三條**及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用スト規定シタルハ同條ハ刑ヲ定ムル言渡ニ付テ抗告ヲ爲スコトヲ得セシメ前條ノ裁判ト抗告トノ手續ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルモノトス是レ抗告ノ手續ハ本法ニ規定ナクシテ刑事訴訟法



ノミ此ノ規定アルヲ以テナリ

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡  
ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫  
ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

【講】 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スノ規定ハ明治三十八年法律第七十號ニ依リ始メテ行ハル  
ルニ至リタルナリ是レ舊刑法ニハ死刑執行ノ者ト分後ノ婦女ニ對シテ一時ノ猶豫ヲ行フ  
ノ規定アリシノミ而シテ此ノ猶豫モ單ニ一時之ヲ猶豫スルモノニシテ刑ヲ免ル、コトヲ得  
ベキモノニ非ズ新刑法ニハ此ノ猶豫ノ規定ヲ設ケタルヲ以テ法律第七十號ハ自ラ消滅スル  
ガ故ニ右法律ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者其ノ猶豫ノ期間ヲ經過セザルトキハ  
其猶豫ノ期間ハ新刑法ニ移リテ刑法ニ依リテ刑ノ執行ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做スモノ  
ナリ若シ本條ノ規定ナキトキハ法律ノ消滅ト共ニ其期間ノ利益ヲ失フニ至ルベケレバ本條  
ヲ規定シタルモノナリ

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書

面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

【講】 私訴ヲ爲スニハ民事訴訟ノ手續ニ從フテ爲スベキモノナルモ公訴ニ附帶シテ之ヲ爲  
ストキハ民事訴訟ノ法式ニ依ラズシテ單ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト  
ス是レ裁判所ハ二者ノ審理ヲ同一ニシ裁判言渡ヲモ同一ニスルヲ得ベケレバナリ但私訴ハ  
民法上ノ法律關係ニシテ本來民事ノ訴訟ニ屬スルヲ以テ民事訴訟トシテ之ヲ提起スルモ固  
ヨリ妨ゲナケレバ本條ヲ規定シタル所以ナリ然ラバ則チ公訴ニ附帶スルハ特ニ之ヲ許スニ  
止マリ必ズシモ公訴ニ附帶スト云フニ非ズ

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之  
ヲ還付スル言渡ヲ爲スコトヲ得

【講】 沒收ハ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ沒收スベキモノハ必ズ犯罪ニ直接シタルモノナ  
ラザルベカラズ故ニ犯罪ニ因テ得タル後其物件ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ沒收スルコ  
トヲ得ザルモノトス是レ本條ニ於テ沒收ハ犯人ノ手裏ニ存スルモノニ限ルトシタル所以ナ  
リ若シ犯人ノ手裏ニ存セザルモノモ沒收スベシト云フトキハ物件ノ種類ヲ變更シタル時例  
ヘバ金錢ヲ窃取シテ衣服ヲ調ヘタルガ如キ場合ニモ之ヲ沒收セザルベカラズ然ルトキハ犯  
罪ニ直接シタルモノニ非ザルモノヲ沒收スベキコト、ナル且又贓物が他人ノ手ニ渡リ轉輾



シタルトキハ之ヲ沒收スルニ甚ダ困難ヲ生ズルナリ之ニ反シ贓物ガ犯人ノ手裡ニ存スルトキハ被害者ノ請求ヲ待タズ之ヲ沒收シテ被害者ニ還付スベキモノトシ裁判言渡ト同時ニ之ヲ言渡スモノトス

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所ハ之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五

圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢

乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テ其終結公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

【講】 以上ノ條項ハ意義明了ニシテ説明ヲ要セス

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

【講】 特別ノ技能トハ或者ニ限リテ爲スコトヲ得ベキ技術等ニシテ普通ノ者ニ於テ之ヲ爲



スコトヲ得サルモノヲ謂フ又費用モ特別ニ多額ヲ要スル時ハ之ニ對スル相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ許シタルナリ

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

改正刑法施行法講義 (終)

明治四十二年三月五日印刷  
明治四十二年三月十日發行

訂正刑法講義圖解  
正價金壹圓貳拾錢



著者 池上駒衛

發行者 渡邊鐵藏  
東京市牛込區筑土八幡町二十六番地

發行者 鈴木常松  
大阪市東區南久太郎町三丁目十五番地

印刷者 堀越  
大阪市西區阿波座二番町一番地

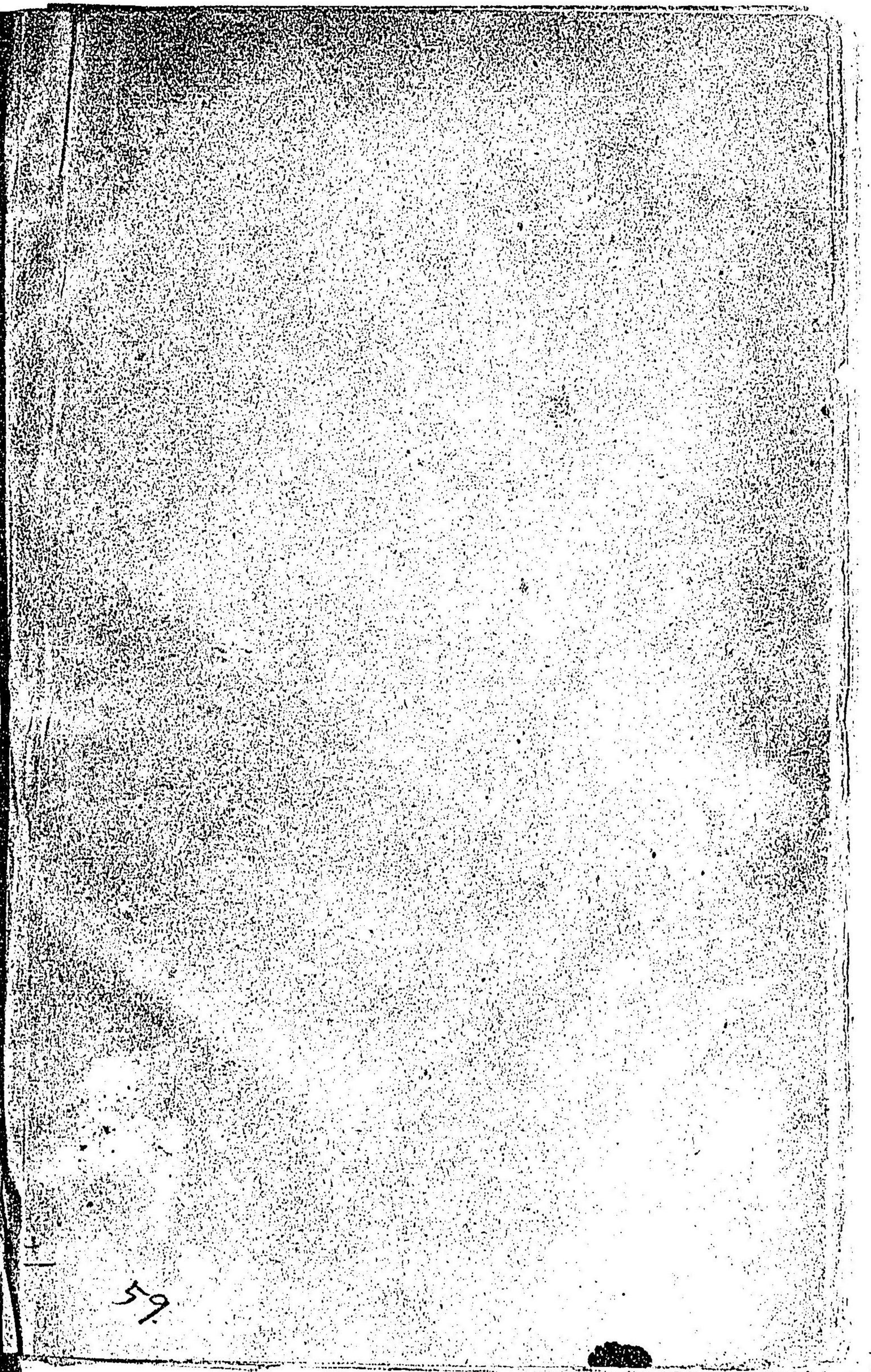
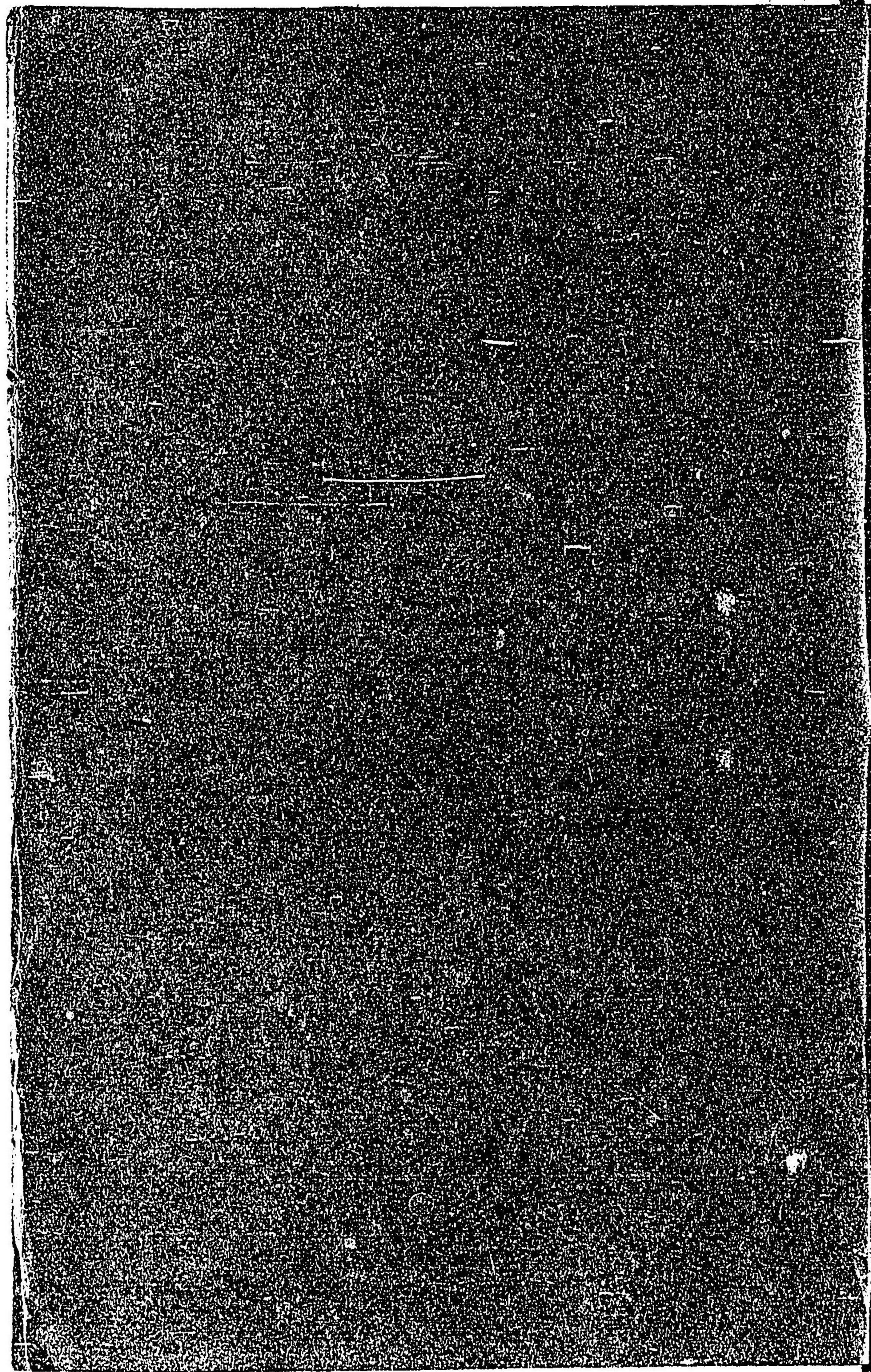
印刷所 堀越日進堂  
大阪市西區阿波座二番町一番地

關西販賣所  
關東販賣所

大阪市東區南久太郎町三丁目  
振替口座大阪四七一番  
東京市神田區錦町二丁目  
振替口座東京二六〇番

修文館  
勉強堂



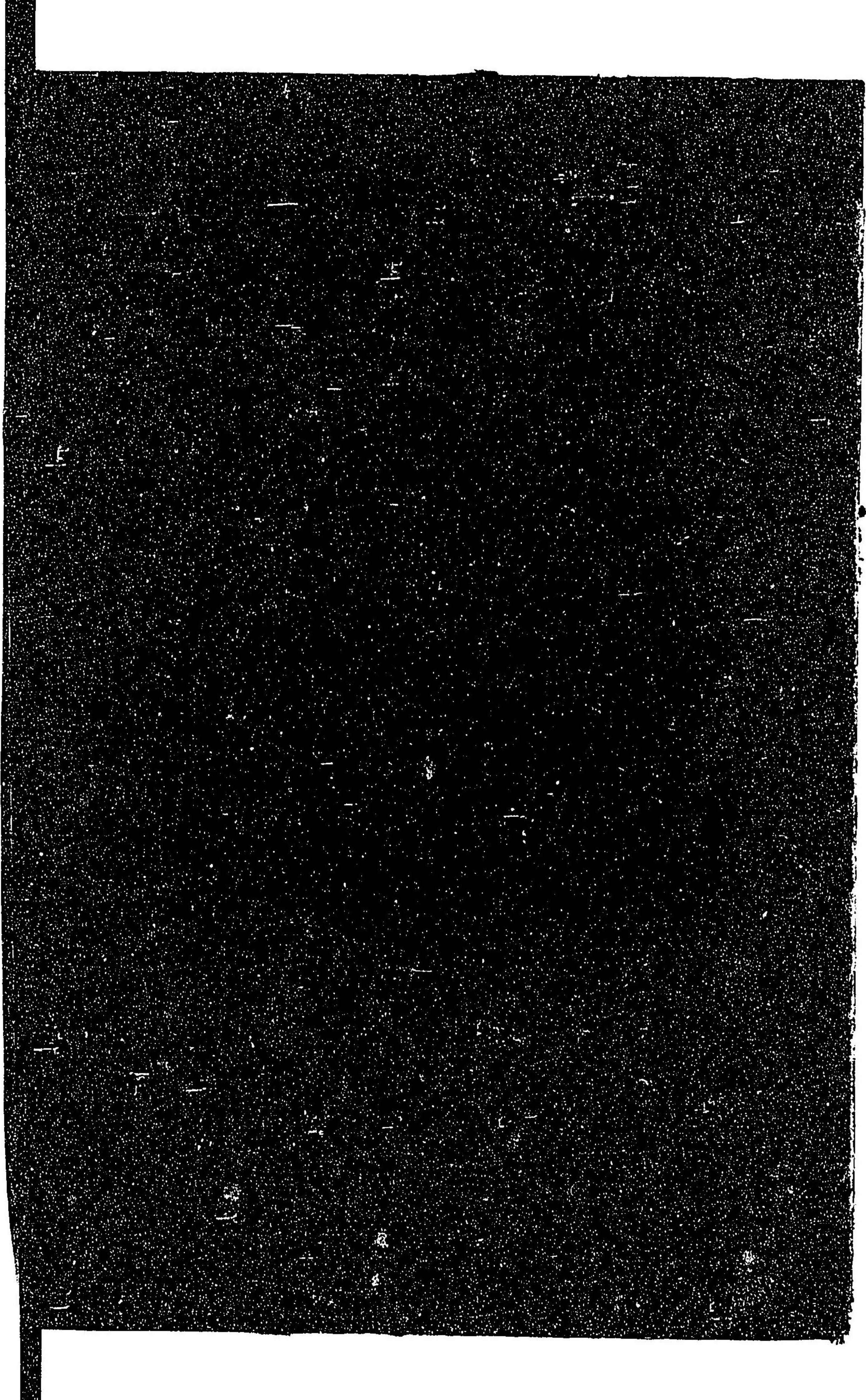


59

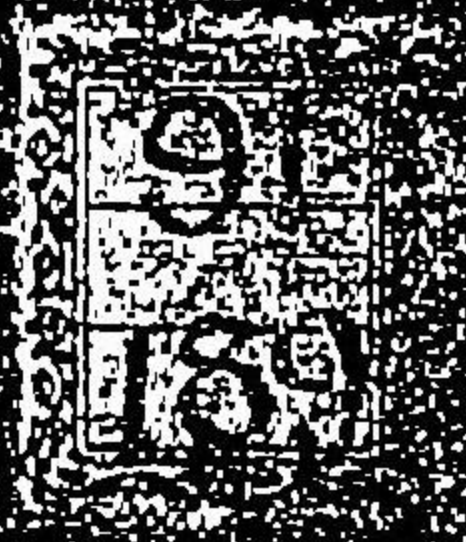


91  
189









035505-000-6

91-189

改正刑法講義図解

池上 駒衛 (信山) / 著

M42

BBP-0045

